

情報リテラシーに関する取組みについて



情報リテラシーとは

情報と識字（リテラシー）を合わせた言葉で、情報を自己の目的に適合するように使用できる能力のことをいい、情報活用能力ともいうが、一般的には情報モラルと同義。

文部科学省の定義する「情報活用能力」

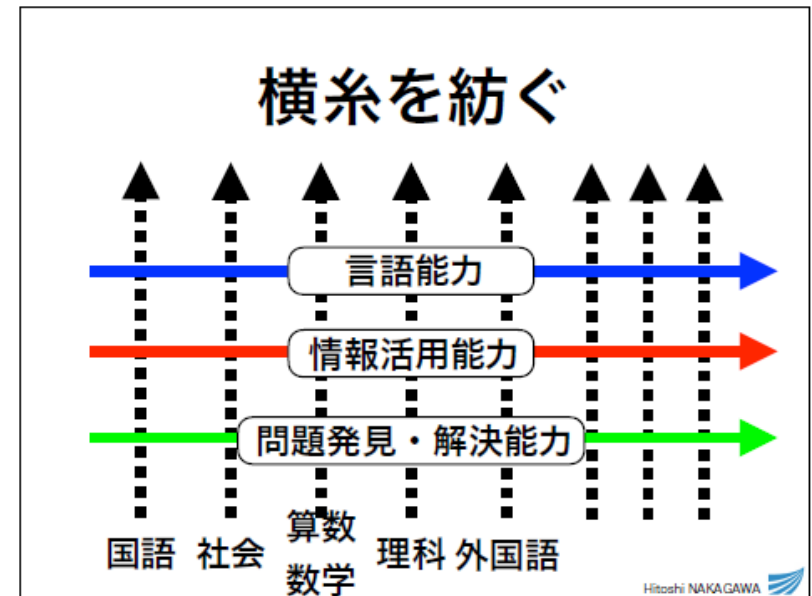
世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力。

ここでは、文部科学省の定義する「情報リテラシー」を「情報活用能力」を指すものとして展開

学習指導要領における情報活用能力の定義

学習の基盤となる資質・能力

- 言語能力
- 情報活用能力
- 問題発見・解決能力



【R7夏季教職員研修 放送大学 中川一史教授 講話資料】

- (1) 各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む。)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、**各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。**

【小学校学習指導要領解説 総則編 第3章 教育課程の編成及び実施 第2節 教育課程の編成
2 教科等横断的な視点に立った資質・能力 (1) 学習の基盤となる資質・能力】

学習指導要領での情報活用能力の定義

情報活用能力とは

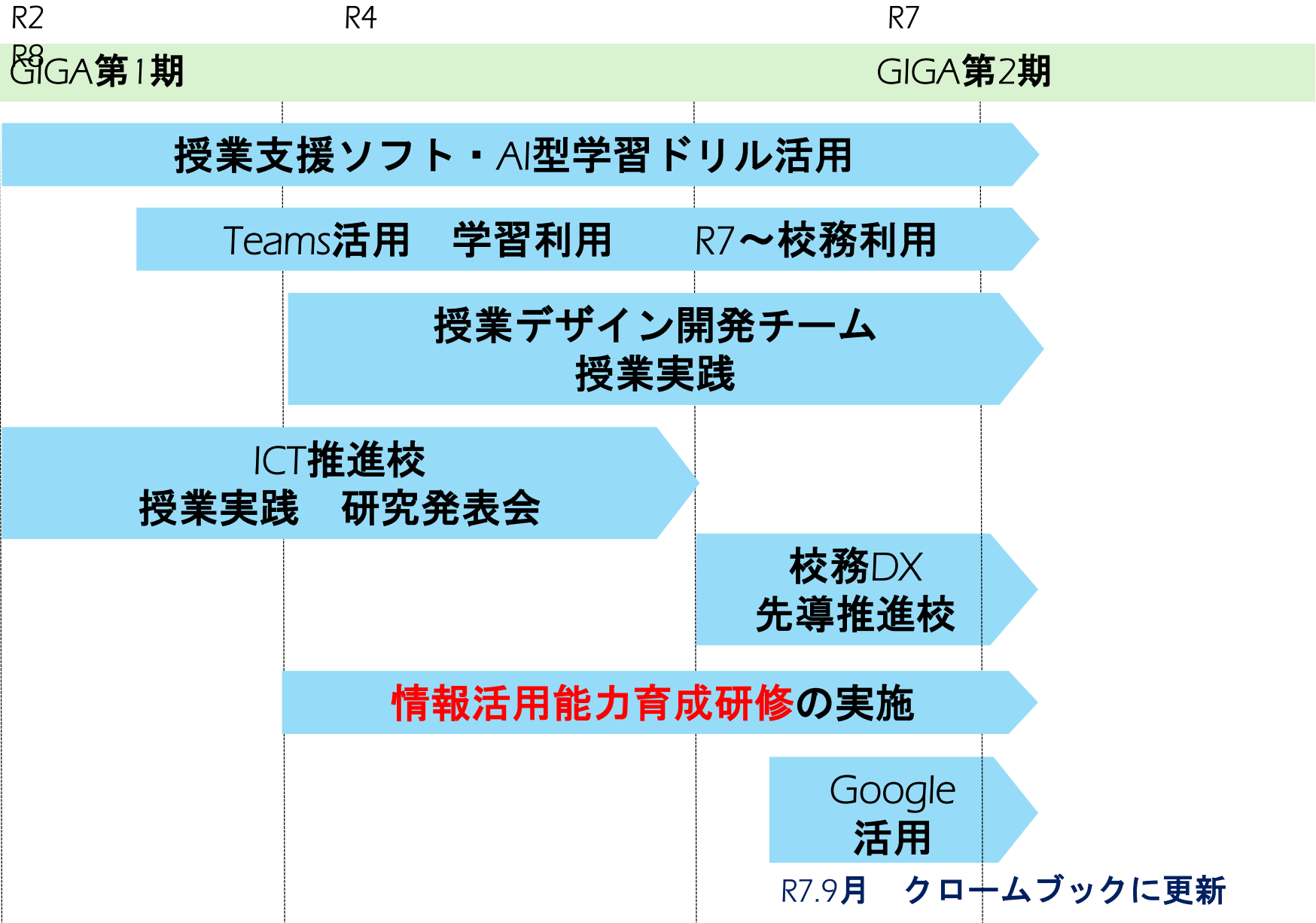
- **情報収集** 必要な情報を得る力
- **整理・比較** 情報を整理し、判断する力
- **表現・発信** 分かりやすく伝える力
- **協働・共有** 情報を共有し、学び合う力
- **デジタル社会の基礎力**

操作スキル・プログラミング的思考・情報モラル・
情報セキュリティ・データの読み取りなど

情報活用能力＝ICTスキルだけではなく、
学びの質を高めるための思考力・判断力の基盤

これからのAI時代には必要不可欠

ICTを活用した情報活用能力の推進

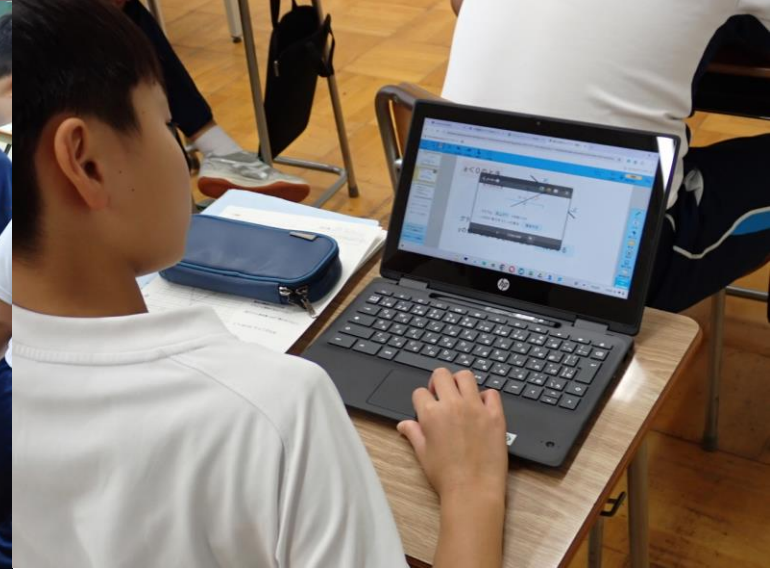
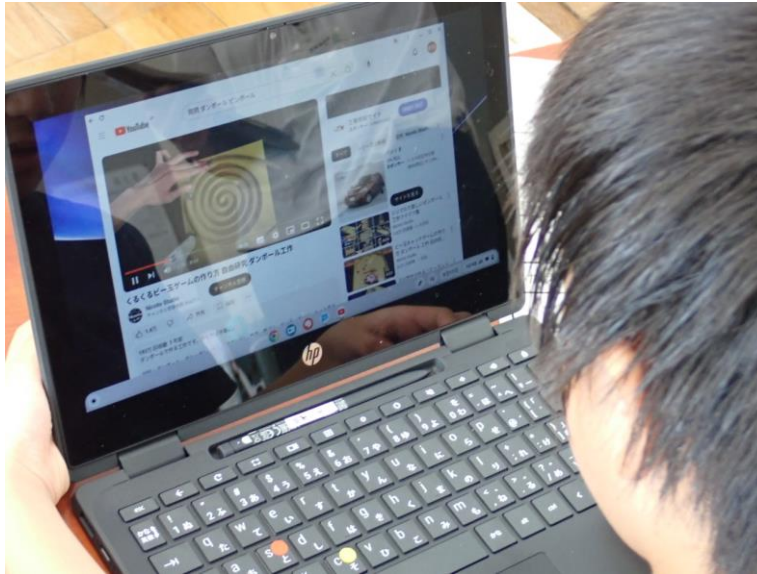


ICTを活用した情報活用能力の推進



クロームブックに変わり、より使いやすく学びやすく

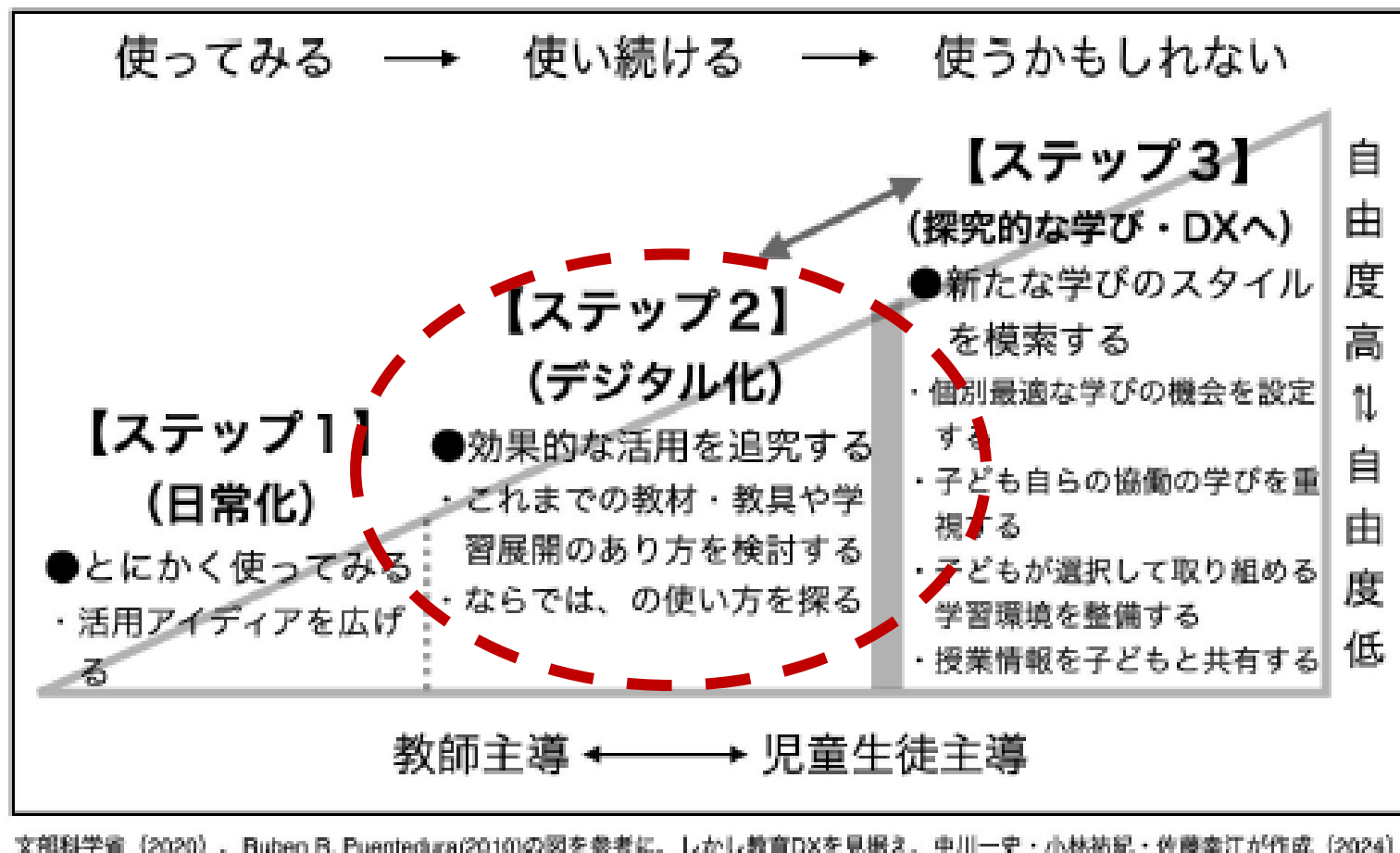
ICTを活用した情報活用能力の推進



自分から課題解決に向けて動き出す姿が見られるように

ICTを活用した情報活用能力の推進

端末活用ステップ



これまでの成果と今後に向けた課題

〔成果〕

- ・ クロームブック更新による**活用頻度の向上**
- ・ TeamsやGoogleワークスペース等の**クラウド活用の拡大**

	小学校 (小5以上)	中学校
インターネットを使って情報を収集することができる	94.2P	96.3P
調べたことなどをプレゼンテーションで作成することができる	87.3P	86.4P
キーボード日本語入力スキル (字／分)	95.9字	97.3字

それぞれの質問に肯定的に回答した児童生徒の割合

これまでの成果と今後に向けた課題

〔課題〕

- ・ 授業でのICT活用に対する教員間差、学校間差
- ・ 情報セキュリティ、情報モラル教育の充実
- ・ **授業観の転換**

	小学校	中学校
調べる場面	41.0P	36.7P
児童生徒同士でやり取りする場面	35.9P	25.5P
理解度・進度等に合わせ て課題に取り組む場面	52.4P	24.9P

それぞれの場面で端末を週3回以上活用したと回答した教員の割合

AI活用研修での若手教師の感想

「生成AIで学ぶ、生成AIを学ぶ2軸がある」という言葉を大切に、今後も自己研鑽に励もうと思います。**子どもたちの未来を考えると、必要不可欠なものであることは紛れもない事実**であり、市レベルで指針を示していただけると安心して取り組むことができそうです。

「**自分の知識・イメージ・主張**があるから、AIの回答とのズレを感じることができる」という言葉が印象に残りました。**私自身、授業で子どもたちにAIを使わせることに不安感があったのは、知識がまだ乏しい中でAIを使うことに意味があるのかと思っていたからだとはっきりしました。**AIとの付き合い方を指導できるように、まずは教員がたくさん使って経験し、校内研修などで課題を設定してAIを使う時間を設けていきたいと思っています。